

名古屋高速道路公社 四十年史



表紙のデザインは、昭和 45 年 3 月に愛知県土木部都市高速道路調査室において、名古屋高速道路の草創期の計画としてまとめあげられたネットワーク図をモチーフとしたものである。交通が集中する名古屋市都心と周辺市街地との連絡に重点がおかれたこの道路ネットワーク図は、交通需要が大きい南北方向に 2 路線を配し、東西方向に 1 路線を配した「サ」の字型の計画となっており、環状ルートを形成する名古屋環状 2 号線の計画とあわせて㊦（マルサ）計画と呼ばれた。



山王 JCT から名古屋駅方面を望む



発刊のことば

名古屋高速道路公社 理事長 森 徳 夫

名古屋高速道路公社は、昭和45年9月、地方道路公社法に基づく全国初の地方道路公社として愛知県と名古屋市により設立され、平成22年9月に40周年を迎えました。

顧みますと、名古屋高速道路の建設は昭和47年1月に始まりましたが、高度成長は終わりを告げ環境問題が顕在化する頃と重なったこともあり、その道のりは決して平坦なものではありませんでした。最初に建設工事に着手した高速3号大高線高辻～大高10.9kmは、建設反対運動の高まりを受け、48年度工事予算が一時凍結されるなどの苦難を経ながら、設立から開通に至るまでには10年の歳月を要しました。

その後、整備計画の変更を行い、高速5号万場線、高速2号東山線、高速都心環状線、高速1号楠線と順次工事に着手しました。63年には高速都心環状線の南側半分が完成し、延長28kmの都心小ループのネットワークが形成され、平成9年には都心環状線が全通しました。13年には名古屋市域外へ初めて延伸した高速11号小牧線が東名・名神高速道路小牧ICに接続し、さらに15年3月には、東山トンネル2.8kmを含む高速2号東山線四谷～高針の完成により開通延長が53.3kmとなり、名古屋高速道路の利用交通量は飛躍的に増加しました。

一方、16年3月には、料金所における渋滞の緩和とお客様の利便性の向上のためETCの導入を開始しました。17年2月に名神高速道路一宮ICと接続するとともに一宮中心部・岐阜方面へ結ぶ高速16号一宮線、19年12月に赤とんぼ橋を設置した高速6号清須線と次々に開通し、名古屋市周辺地域との利便性が一層高まりました。交通量の増加により生じた高速都心環状線と高速3号大高線の合流部の渋滞についても、23年3月に名二環高針JCT～名古屋南JCTが開通し、環状道路機能がさらに強化されたことにより大幅に改善されております。23年11月には高速4号東海線木場～東海JCTの開通により、伊勢湾岸道と東海JCTで接続し、整備計画延長81.2kmの95%にあたる77.3kmが開通しました。現在では一日28万台を超えるお客様にご利用いただき、名古屋都市圏の人や物流の連携・活性化、産業・経済の発展に寄与する重要な都市基盤になっております。

こうした状況の中、残っておりますJR東海道新幹線を跨ぐ高速4号東海線六番北～木場3.9kmにつきましても、早期の完成を目指しているところであり、建設事業の終了と全ネットワークの完成が目前となってまいりました。

今後も名古屋高速道路をより安全・快適にご利用いただくために、環境対策、交通事故対策、渋滞対策などの強化はもとより、より一層のコスト削減を図るなど健全な経営の確保に努めながら公社事業を推進してまいります。

40周年の節目にあたり、これまでの建設の歩みを顧み後世にその歴史を永く伝えるため、今般公社の40年史を発刊することとしました。本書が、些かでも今後の公社事業推進の糧となればこの上ない喜びであります。

最後になりましたが、沿線の住民の方々をはじめ今日まで当公社の業務にご協力、ご指導、ご支援いただきました皆様方に改めて心よりお礼申し上げますとともに、設立当初から今日に至るまでたゆまぬ努力と強い信念を持って職務にあたってきた公社先輩役職員に対し敬意と感謝の念を表する次第であります。

公社の置かれた状況には厳しいものがあり、残された課題も数多くありますが、役職員一丸となって事業の推進に邁進する所存でありますので、今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願いし発刊のことばといたします。

平成24年3月